常任委員会

行政視察レポート

【鹿児島県霧島市】
「国の制度に基づかない自治体間広域連携の実践と効果について」を研修しました。
近隣の5つの市と2つの町が参加し広域連携の組織を立ち上げ、観光や防災、そして教育などの施策や事業を協働で展開して実績を上げています。
活動は、7市町合同での観光PRキャラバンの実施、相互応援の災害協定の締結、災害時の家畜の避難場所の広域連携等など多岐にわたり進められています。
広域連携によって、単独の自治体では解決できないことを補完し、自治体機能が強化されており、これからの自治体運営を考えた場合に非常に有効であると実感しました。今回研修した個々の具体の事例を含め委員会として検討したいと考えます。

【鹿児島県鹿児島市】
「住民自治および地域力の再生への行政の関わり方について」を研修しました。
鹿児島市では、市町村合併後の課題として地域による住民意識の違いが地域の振興を図るうえで差となって顕在化してきていました。これは、時代とともに住民自治が劣化してきていることにも起因しており、行政が自治組織を再生するための考え方や手法などを示して支援をしています。
本市でも、地域自治の能力や考え方が一昔前とは異なってきている現状があり地域に即した対応と支援は必要です。よって地域の実情を把握するための努力は、今後も議会としても最大限傾注していくべきと考えます。

自治体の広域連携についての研修（霧島市）

平成24年11月13日～15日
総務常任委員会

文教常任委員会
平成24年11月14日～16日

【和歌山県田辺市】
「複合施設としての図書館整備について」を研修しました。
平成に入り、施設の老朽化等から郊外移転した病院の跡地をめぐっては、中心市街地活性化計画で議論するとともに、跡地利用についての懇話会を立ち上げ、市民の意見を十分に取り入れながら検討。その結果、世代を超えて多くの市民が集い交流できる場として、図書館と歴史民俗資料館の機能を合わせ持つ複合文化施設「田辺市文化交流センター」が開館しました。新図書館の利用者の大幅な伸びは見られるものの、今後、市内の経済活性化にどう結びつけられるのかが課題とのことです。
本市においても、同様の課題が見受けられ、空洞化した市街地にどのように人の流れを取り戻すか、また、図書館の機能について委員会としても参考事例として検討していきたいと考えます。

【兵庫県明石市】
「不登校といじめ対策について」を研修しました。
明石市は、兵庫教育大学の井上雅彦準教授の指導のもと、平成20年度から不登校予防のための早期対応システム「ストップ不登校あかし」を導入。その出現の抑制が成果として表れました。また、いじめも、早期発見策「いじめ発見のチェックポイント」を活用し、情報の収集と共有化を図り、関係者が一体となって取り組んでいます。不登校といじめは関連ある問題であり、明石市では児童生徒支援課を設置し専門に取り組んでおり、未然防止への熱意を感じました。

不登校といじめ対策についての研修（明石市）

【福岡県大牟田市】
「災害時等要援護者支援制度について」を研修しました。
大牟田市の災害時等要援護者支援制度は、別名「ご近所支え合いネット」といい、この名が表わすとおり、災害時はもちろんのこと、高齢者や障がい者、妊婦、乳児等を日ごろから地域で見守り、支え合いのある安心して暮らせる環境づくりを行政と地域との協働により推進しています。
また、市役所内部においては、どこにどんな人がいるのか、組織横断的に情報を集約し、把握した情報を行政と地域の支援者が共有することで要援護者と近所の支援者がつながりを深めているとのことです。
要援護者自ら日ごろから近所の人や地域の団体とつながりを持つことが大切であり、今後の参考にしたいと考えます。

【佐賀県唐津市】
『障がい者就労「チャレンジ雇用」について』を研修しました。
唐津市では、就職を希望する障がい者を市役所が支援する取り組みを平成19年度から市の単独事業として実施しています。こうした取り組みを通じて市職員や市役所を訪れる市民の方々の間にも障がい者就労に対する理解が広まってきているとのことでした。
障がいのある人も、ない人も平等・公平に社会参加する機会を確保することに感銘しました。
本市においても参考となる事例でありましたので、今後、委員会で検討していきたいと思います。

災害時等要援護者支援制度についての研修（大牟田市）

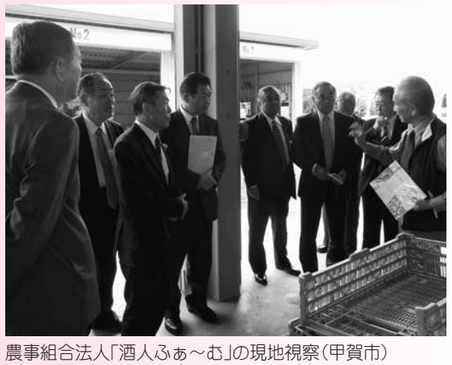
平成24年11月14日～16日
福祉常任委員会

産業建設常任委員会
平成24年11月14日～16日

【大阪府茨木市】
「産業振興推進事業について」を研修しました。
茨木市は、産業振興アクションプランの中で5大プロジェクトを進めています。その1つである「国際文化公園都市」彩都（さいと）は、自然と都市が調和した都市環境を創造し「働く、住む、学ぶ、憩う」ことのできる複合機能都市の形成を目指しています。地区内には、大型商業施設や小・中学校が立地しているほか、生活や交通の利便性から、シンボルゾーンである「彩都ライフサイエンスパーク」には、バイオ分野の研究機関やベンチャー企業が集積し、働く場としての魅力も向上しています。
また、10年先に向けた重点的な取り組みとして「成長を目指す事業者の活力向上」「市民の快適な暮らしや地域社会を支える機能の充実」「産業を活性化させる基盤づくり」を柱に進めています。
より息の長い商売を続けるためにも、民がアイデアを出して実践し、これを行政が支えるといった民間主体での取り組みをしていました。
本市も、高速交通機関の結節点という拠点性をより効果的に産業振興につなげていく取り組みが重要と感じました。

【滋賀県甲賀市】
『農事組合法人「酒人（さこうど）ふぁ～む」の取り組みについて』を研修しました。
法人設立のきっかけは、平成14年に経営体を変えなければ集落自体の存続が危ういと、まずは農地を守っていくことを第1に考え、担い手育成と農地集積を掲げ、総兼業の水田集落の担い手として集落1農場方式による営農を実現するためとのこと。特徴として、年齢や作業能力に応じて役割分担し、生きがいを創出しながら集落の全員参加によって地域農業と農地を維持していることです。
農業を基幹とする本市でも、地域経営体の強化が必要と強く感じました。

【滋賀県長浜市】
「長浜市観光イノベーション戦略について」を研修しました。
この戦略は、「日帰り型観光」から「宿泊・滞在型観光」へと転換し、歴史文化や付加価値をあらためて洗い出し、宿泊客数を10年間で30万人から60万人に倍増させるというものです。具体的には、エリア別テーマ設定やリピーターを生むための「もてなし力」の向上等、さまざま事業を展開しています。
本市でも、観光立市を掲げており、より実効性ある多様な観光戦略について委員会としても検討課題としたいと考えます。


農事組合法人「酒人ふぁ～む」の現地視察（甲賀市）